

第1表 「ふさのもち」の育成経過

年代	世代	養成規模	選抜数または系統数	育成経過及び概要
1994	交配 F ₁	5個体	5個体	8月交配(交配番号 佐交94-73) 12月～4月 ガラス温室で養成
1995	F ₂ F ₃	約1500個体 約1800個体	約1500個体 約1800個体	6月～10月 圃場で集団養成 12月～4月 ガラス温室で養成
1996	F ₄	1500個体	26個体	5月～10月 圃場で個体選抜
1997	F ₅	26系統	7系統 (28個体)	選抜系統に試験番号98514～98520を付与 98516が後の「千葉糯23号」
1998	F ₆	7系統群 (28系統)	1系統 (5個体)	生産力検定1年目(奨励予備調査), 特性検定 98516に「佐系糯118」を付与. 選抜系統番号: 3542
1999	F ₇	1系統群 (5系統)	1系統 (5個体)	生産力検定2年目(奨励本調査), 特性検定 (現地調査: 干潟町) 「千葉糯23号」を付与. 選抜系統番号: 4095
2000	F ₈	1系統群 (5系統)	1系統 (5個体)	生産力検定3年目(奨励本調査), 特性検定 (現地調査: 干潟町) 選抜系統番号: 4081
2001	F ₉	1系統群 (5系統)	1系統 (5個体)	生産力検定4年目(奨励本調査), 特性検定 (現地調査: 栄町) 選抜系統番号: 4070
2002	F ₁₀	1系統群 (5系統)	1系統 (5個体)	生産力検定5年目(奨励本調査), 特性検定 (現地調査: 山武市, 栄町, 佐倉市) 選抜系統番号: 4063
2003	F ₁₁	1系統群 (5系統)	1系統 (5個体)	生産力検定6年目(奨励本調査), 特性検定 (現地調査: 山武市, 栄町, 佐倉市) 選抜系統番号: 4080
2004	F ₁₂	1系統群 (5系統)	1系統 (5個体)	生産力検定7年目(奨励本調査), 特性検定 (現地調査: 山武市, 栄町, 佐倉市) 選抜系統番号: 4091
2005	F ₁₃	1系統群 (5系統)	1系統 (5個体)	生産力検定8年目(奨励本調査), 特性検定 (現地調査: 山武市, 栄町, 佐倉市, 成田市) 選抜系統番号: 4080
2006	F ₁₄	1系統群 (5系統)	2系統 (10個体)	生産力検定9年目(奨励本調査: 育成地, 千葉市) (現地調査: 山武市, 栄町, 成田市), 特性検定 選抜系統番号: 4073, 4076 種苗法に基づく品種登録申請

穂発芽しにくかった。また、玄米は大粒で外観品質が良く、ついたもちの食味が良好であった。

1999年にはF₇世代の「佐系糯118」の系統群 5系統を養成し、形質の固定を図った。また、奨励品種決定調査の基本調査及び現地調査(干潟町)、並びに耐冷性、いもち病圃場抵抗性、穂発芽性等の特性検定試験に供試した。基本調査では、「佐系糯118」は成熟期が「ツキモチ」より8日早いものの、短強稈で、耐倒伏性が強く、穂発芽性は難で、耐冷性に優れ、葉いもち及び穂いもちに強かった。収量は「ヒメモチ」並であったが、玄米は大粒で外観品質が良く、ついたもちの伸びと粘りが良く、食味が良好であった。これらの調査結果から同系統を有望と認め、「千葉糯23号」の地方番号を付与した。

2000年は、前年と同様に、F₈世代について系統群系統選抜に供試し形質の固定を進めるとともに、奨励品種決定調査及び特性検定試験に供試した。現地調査を干潟町で実施した。

その結果、「千葉糯23号」は精玄米重が「ヒメモチ」に比べやや少なく、特に多肥栽培で少なかったものの、耐倒伏性に強く、いもち病検定ではいもち病に強いなどの優れた特性を示したことから、有望系統とした。

2001年以降も、系統群系統選抜に供試し形質の固定を図るとともに、奨励品種決定調査並びに耐冷性、いもち病圃場抵抗性、穂発芽性等の特性検定試験に供試した。

2001年は、F₉世代を奨励品種決定調査並びに現地調査

(栄町)に供試した。育成地における奨励品種決定調査では多肥栽培で玄米外観品質が優れたことから有望系統とした。

2002年は、F₁₀世代を育成地での奨励品種決定調査に加え、山武市で生産力検定試験(奨励品種決定調査現地調査を兼ねる)並びに栄町と佐倉市で現地調査に供試した。育成地及び山武市ではやや多収で、玄米外観品質は良好であった。栄町と佐倉市では対照品種に比べ耐倒伏性が強く、玄米外観品質も良好であった。

2003年は、F₁₁世代を育成地及び現地調査(山武市, 栄町, 佐倉市)に供試した。対照品種に比べ多収を示し、玄米外観品質も良好であった。

2004年は、F₁₂世代を供試し、育成地では収量は「ツキモチ」と同程度で、山武市では多収を示した。玄米外観品質も良好であった。

2005年は、F₁₃世代を供試し、育成地では収量は「ツキモチ」と同程度で、山武市では多収を示した。玄米外観品質も良好であった。現地調査に大栄町(現成田市以下成田市とする)を加え供試した。栄町, 佐倉市, 成田市では収量は対照品種と同程度であったが、耐倒伏性が強く、玄米外観品質が良好であった。

2006年は、F₁₄世代は奨励品種決定調査に千葉市を加え供試した。育成地, 千葉市及び山武市では「ツキモチ」に比べ収量は同程度であったものの耐倒伏性や玄米外観品質が良好であった。

第2表 苗の生育 (育成地)

品種名	草丈 (cm)	葉令 (枚)	乾物重(mg/本)		地上部乾物重 草丈比
			地上部	根部	
ふさのもち	14.7	1.9	13.0	2.5	0.88
ツキミモチ	14.1	1.9	11.6	2.2	0.82
ヒメノモチ	14.6	2.2	13.0	2.9	0.89

注1)2005~2007年の平均値, 播種期4月5日. 20日苗を調査した.
2)調査個体数は草丈と葉令は30本, 乾物重は50本とした.

第3表 生育及び病害発生程度

品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	病害発生程度	
							穂いもち	紋枯病
ふさのもち	7.28	9.06	74	20.0	408	1.4	0.2	3.0
ツキミモチ	7.31	9.10	87	20.5	414	3.3	0.3	3.0
ヒメノモチ	7.23	8.27	81	19.0	381	2.3	0.3	2.8
コシヒカリ	8.02	9.11	91	18.7	433	3.5	2.8	3.0

注1)育成地(香取市:砂壤土), 2003年~2005年の平均値.
2)播種期4月2~5日, 移植期4月25日, 窒素施用量(kg/a): 基肥0.6, 穂肥0.3.
3)倒伏・病害発生程度は0(無)~5(甚)の6段階.

第4表 耐冷性検定試験 (育成地)

品種名	不稔率 (%)					評価
	2002年	2003年	2004年	2005年	平均	
ふさのもち	10.1	25.2	14.5	4.1	13.5	強
ツキミモチ	24.1	53.8	27.2	35.0	31.9	弱
ヒメノモチ	15.5	16.2	7.2	14.9	13.5	強
コシヒカリ	18.5	41.9	25.3	21.4	26.8	(強)
はなの舞い	8.0	18.7	5.5	9.3	10.4	(極強)
ふさおとめ	27.3	10.0	7.1	10.5	13.7	(極強)
ひとめぼれ	20.7	33.1	26.7	19.6	25.0	(強)
ハヤヒカリ	82.6	14.1	12.3	29.9	34.7	(弱)

注1)冷温処理による不稔率を示した. 冷温処理はポット栽培した個体
について葉耳間長が±0cmの茎が現れた時点から, 気温17℃, 日長
4時間で7日間処理した.
2)評価の()内は基準品種の評価基準.

第5表 穂発芽性検定試験 (育成地)

品種名	置床後日数と発芽率 (%)												総合 評価
	2003年				2004年				2005年				
	3日	5日	7日	評価	3日	5日	7日	評価	3日	5日	7日	評価	
ふさのもち	40	75	90	中	2	15	40	難	5	10	40	難	やや難
ツキミモチ	30	90	98	中	8	30	50	難	3	8	15	難	やや難
ヒメノモチ	95	100	100	(易)	95	100	100	(易)	99	99	100	(易)	(易)
コシヒカリ	5	15	3	(難)	2	10	70	(難)	0	1	5	(難)	(難)

注1)成熟期に5穂を採取し, 冷蔵庫(4℃)で保管後, 温度27℃, 湿度95%以上の
定温器に置床した. 置床後の3, 5, 7日目に発芽率の割合を3回達観調査した.
2)総合評価の()内は基準品種の評価区分.

栄町と成田市での現地調査では対照品種に比べ, 耐倒伏性が強く玄米外観品質が良好で, 概ね多収を示した.

以上, 奨励品種決定調査並びに特性検定試験の結果から, 「千葉糯23号」は, 耐倒伏性や耐病性, 穂発芽性等の栽培特性が優れ, 玄米は大きく, 外観品質が良好で, ついたも

ちの色, 味, 伸び, こし(弾力性)の強さ等の加工特性も良好であると認められた.

千葉県は「千葉糯23号」を育種目標にかなう優良系統と認め品種名を「ふさのもち」と命名し, 2007年3月22日に種苗法にもとづく品種登録を申請した. また, 2006年に千